

<b>第19回 第5分科会会議録(概要)</b>		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年3月24日 午後7時00分～午後10時00分	記録者	【学生補助員】 久保田・多久
		責任者	区事務局(松浦・池田)
会議出席者：23名 (区民委員：19名 学識委員：1名 区職員：3名)			
配付資料 第18回会議録 4月の日程のお知らせ 提言に向けてのスケジュール(案) 区民委員資料 国史跡「江戸城外堀跡」の保存管理計画について  進行内容 1 はじめに 2 リーダー、サブリーダーより報告 3 国史跡「江戸城外堀跡」の保存管理計画について 4 区民委員より発表 5 提言のまとめについて 6 学識委員より 7 事務連絡  会議内容 【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員  1 はじめに  : 配付資料の確認(5点) 本日の配付資料の中で、配付資料「提言に向けてのスケジュール(案)」ですが、3月10日に新宿区民会議世話人があり、後ほど、リーダーからご報告があると思いますが、前回お示したスケジュールから大幅に変更になりましたので、改めて配付します。配付資料「国史跡江戸城外堀跡の保存管理計画について」は生涯学習振興課文化財係よりで、後ほど、説明させていただきます。 本日の進め方ですが、まず、リーダー、サブリーダーの方から3月10日の世話人会と3月23日の世話人会編集部会の報告、次に、生涯学習振興文化財係からの説			

明、区民委員からの提案の発表、そして、提案のまとめ方をお諮りさせていただきます。最後に、本日のまとめ、事務連絡と進めさせていただきます。

また、第3分科会からのお知らせがあります。他の分科会と関連するテーマがあるため、各分科会から4月、5月に開催する第3分科会に、何人が参加していただいて、意見交換等を行いたいという提案がありましたので、ご案内を差し上げております。

それでは、リーダーの方、ご報告をお願いします。

## 2 リーダー、サブリーダーからのご報告

- ： それでは、この間のご報告とお願いをさせていただきます。2月19日の中間発表会以降、廣江先生に打ち合わせを兼ねて、ご報告に行きました。また、第1～第6分科会のリーダー、学識委員で構成する世話人会が開かれ、それを受けた形で今後の進め方を検討してまいりました。詳細は、後で触れる機会があると思いますが、私の感想として、第1～第6分科会の発表をお聞きなつて、皆さんおわかりだと思いますが、かなり詳細に報告した分科会もあれば、議論百出でなかなかまとまらない印象を受けたところもありました。その中で、第5分科会は、中間報告はあくまで経過報告を兼ねたプレゼンをしていこうという考えで、具体的な提案は、6月の提言に先送りしてきました。世話人会の中で、実際に、各分科会の状況を聞いていると、議論百出な分科会は、議論を煮詰めている印象を受けました。また、きちんと整理している分科会は具体的な提案を発表できるような印象も受けました。第5分科会は、第5分科会の道を行くことになるわけですけれども、今後は、かなり詰めていく状況でやっていかないといけないかと私自身は思っています。実際、6月25日の提言に向けて、作業をするわけですけれども、お配りいただいた資料や第3分科会からの提案をご覧いただきますと、どの分科会も大変な作業で、時間も無いと言っておりました。それは私たちにとっても同様です。そして、提言の方法としては、中間発表会のように他分科会との連携をせずに、独自に提言するやり方ではなくて、世話人会で調整をしていこうということになりました。一度、世話人会に提言案を提出して、世話人会の中に起草委員会みたいなものを作り、各分科会からの提言の中に重複するテーマなどの調整をして、区民の方が読みやすいように工夫していくことになりました。したがって、私たちが6月25日に独自に提言を発表するのではなくて、かなり早い段階で世話人会に提言案を出すという形になりますので、その点は重ねてお気に留めていただきたいと思います。そうしますと、スケジュール的には、臨時の検討会や執筆に向けての作業グループなどの必要があります。私自身そういった経験が全くございませんので、そういった類型を吸収したいと思います。

また、前回お約束した5人の委員の方から、10年後、20年後の将来のあるべき姿の具体的な提案をひとり10分程度で発表していただきます。とりあえず、今日はそういった形で進めさせていただきますが、資料を見て確認していただくところもございませうが、まず私から簡単なご報告に代えさせていただきます。

: ありがとうございます。次に、生涯学習振興課文化財係より説明がございませう。

### 3 国史跡「江戸城外堀跡」の保存管理計画について

: 生涯学習振興課文化財係長です。今日、配付資料「国史跡江戸城外堀跡の保存管理計画」に基づいて、ご説明いたします。まず四谷見附から牛込の所の堀ですけれども、あれは「江戸城外堀跡」と名付けられており、なおかつ国の史跡で文化庁所管ものです。そこに千代田区が、路上生活者施設を作りたいということで、その許可条件として、千代田区、港区、新宿区の3区にまたがる地域をどこが管理するかということは決まっていませうので保存管理計画を作るように指示がでました。そこで千代田区が中心となりまして、保存管理計画を作ろうと港区と新宿区に働きかけました。そして、この保存管理計画とはどういったものかといひますと、まず何を外堀の価値として保存するか、どう活用するのかなどの整備計画への流れです。現在、この流れについて、国史跡の場合、補助金を使って地元主導で行うのですが、なかなか成功が難しく、お金を出しておきながらそのまま荒れた状態になってしまっているという事例もあるので、文化庁としては保存管理計画をはっきりと考えなさいとの事です。その後、そのような整備計画をしていけば活用することができるかですが、活用ありきの保存管理計画では文化庁は許可しないと思ひます。それを平成20年3月までに3区合同で作るといひことで、現在、千代田区を中心に学識の方を含めまして、今年4月から正式に策定委員会が動き始めます。実は、この外堀といひのは、千代田区が積極的に活動しており、区長自身が文化遺産プロジェクトとして外堀を積極的に活用していこうといひことで、江戸城全体を含めて、まちづくりのスタンスとしていひます。新宿区はあの中にあまり土地がないことから「歩きたくなるまち新宿」で貴重な水辺と緑の空間として位置づけていひますが、それ以上にどうしたいかが積極的に出てきていないといひことがあります。今は教育委員会を中心に動いておりませうが、来年度からは環境土木部、都市計画部なども入りまして、まず保存管理計画を策定し、続いて、整備計画を策定し、どういった形で活用するかを考えていく予定です。大変簡単ではありませうが、このような計画が現在、動いておりませう。何かご質問のある方はいらっしやいませうか。

: 今、お話にあった路上生活者施設はどのようなものですか。

: 少し前まで新宿区内藤町の自転車置き場の所にありませうした路上生活者の方が一時的に冬の時期などに生活する施設です。その施設を他に場所がないので作るという計

画でスタートしましたが、まさか文化庁もそのような施設を国史跡の中に作ると思わなかったのが、現状変更許可ということで3年間認め、この許可の条件として3区合同の保存管理計画を作りなさいという指示を出しました。もともと南北線を作る際に指導がありましたが、その頃の文化庁は江戸時代に戻すのかというくらいきつい考え方をもっておりましたが、現在は単なる保存ではなくて、どのように活用するかを明確にしろという指導になり、全国各地の国史跡公園のような活用方法を考えているのが現在の文化庁のスタンスです。

- : 江戸城の天守閣復活の運動に有力な人が関わっていますが、それについて何かおっしゃっていますか。
- : 文化庁はまだ何も言うてはおりません。実は、外堀だけならあまり所管はないのですが、江戸城の内堀に入ると宮内庁の所管でして文化庁といえどもなかなか入れません。もちろん私もその話は聞いておまして、千代田区は区長を中心にトップダウンで大手企業や観光協会が街づくりに協力する組織ができています。しかし、江戸城天守閣ですがそんなに長い時期あったわけではありませんで、どういうふうになるのか私どもは少々わからないのですが、そういう動きがあることは承知しております。
- : ありがとうございます。前回の分科会で決めました10年、20年後のあるべき姿の具体的提案を発表していただくということで、こちらの進行はサブリーダーの方、よろしくお願いします。

#### 4 区民委員より発表

- : 先程、リーダーからご報告がありましたが、今後のスケジュールについて、詰めていかなければならないということで、一人10～12分程度でお願いします。では、順番に、発表をお願いします。
- : (A委員)こんばんは。図書館と情報化についてお話をさせていただきます。図書館というと、本好きの人が楽しみのために本借りる所、生徒や学生が宿題調べに通う所、一般の人はあまり必要がない所というイメージが強いのではないのでしょうか。これからの図書館は子どもから高齢者まであらゆる人の読書欲を満たし、知りたい事に応え、潜在的な能力を引き出す所です。地域コミュニティの集会拠点であり、中小企業者へのレファレンスサービス、働く人にも役立つ情報を提供していく所だと思っています。図書館も持っている情報を充実し、いかに最大限に活用していくかが重要な鍵になると思います。その情報を、皆さんのニーズにあわせてガイドし、アクセスするのにお手伝いをするのが司書です。ですから、この司書が果たす役割は大きいのです。図書館の情報だけではなく、外部のいろいろな領域とネットワークし、どこにいったら入手できるかをアドバイスしてくれます。ビジネス支援とい

うと何かサラリーマンがデータを探しにくることをイメージしますが、生活支援と考えたらいいのかと思います。今一番求められているのは、健康支援と医療支援だと思います。体調管理にはどういうことに気を付けたらいいのか、食べ物はどうしたら良いのか、病気になったら自分がどういう状態であり、自分にとって一番あう病院はどこなのか、そういうことがわかったらいいですね。そこに医療司書がいて、レファレンスしてくれたらもっといいですね。その他に職業支援、家事支援など役立つ情報を必要なときに提供してくれたら素晴らしいですね。その次に、「ディスカバー図書館2004 図書館をもっと身近に暮らしの中に」という本から、2004年5月に明治大学で文部科学省と社団法人日本図書館協会が共催イベントを行いました。鳥取県知事の片山善博さんが基調講演で「知的立国を図書館から」という題でお話なさっていました。皆さんに全文をお配りしていますが、あとで読んでいただければよろしいかと思います。私からは概略をお話します。「日本の資源は人材だと思います。国の施策も重要だが、知（知識）の地域づくり、知を大切にする地域づくりをしなければなりません。教育は大変重要ですが、同時に図書館というものが知の地域づくりに欠くことのできないインフラだと思います。図書館の施設としてだけでなく、図書館を支える司書を中心としたスタッフ、人的資源が大切です。政治を行う上で一番何が武器かという言葉、説得力です。それは、知識であり、教養であり、判断力であり、推論する力だと思います。それらは全て読書によって支えられているのではないかと思います。知識を吸収するだけではなく、本と対峙し真剣に考えることが大事です。本と同調することもあり、批判的に読むこともあります。考えること、考える力を養うことが一番大事です。読書を習慣付けられるかどうかは、小さい頃からの生活習慣が影響します。小さい頃に両親から与えられる家庭環境が影響してくると思います。私も親の願いとして、6人の子どもに、妻と読み聞かせなども行ってきました。日曜日など図書館へ行くときは必ず子どもを連れて行きました。6人の子どもの中で非常に本好きな子とそうでない子がいます。なぜかと考えたときに、思い当たる節がありました。いろいろと転居していく中で地域の図書館環境も違っていましたし、私の仕事が忙しくてなかなか図書館に行けなかったこともあり。それが大きく関係しているように思いました。サンプル数としては6人の子どもということで少ないのですが、比較検討してそういう結論が出てきました。したがって小さい子どもには身近に図書館があり、親しむということが大切だと思いました。司書にはもう少し権限を与え、尊厳をもって、自信をもって、仕事をする環境を作ることが必要であり、もっと発言権を与えていくようにしたい。自治体に求められるのは規模ではなく、質の問題だと思う。図書館行政などに目を向けているかが問われる所です。」と締めくくっています。また、図書館がもっと進化したらどうなっていくのか、これはニューヨークの話ですが、どんな図書館になっていくのか興味があります。アメリカでは図書

館は市民社会において必要不可欠な施設で、情報とは即パワーであり、新しいものを生みだすための創造の拠点と考えられています。文化の象徴であり、身近で誇りの持てる施設だと思われています。私のお配りした資料の中で「日本の図書館の発展」のグラフを見てください。1970年頃には、図書館は非常に少なかったのですが、現在は、3000館以上ということで約4倍になっています。図書の貸出数は約1.2倍になっています。1970年頃から図書館は徐々に増え始めたのですが、1980年頃に開架式書庫といって、自分で書庫に入って本を選べるようになってから、図書館は人気を博していますし、図書の貸出数も非常に増えています。それは1990年代、2000年代にも続いています。次に、「世界における日本の公共図書館」ですが、G7の中で図書館数は最下位です。貸出数は第5位ということで、経済大国日本ですけれども図書館としてはまだまだ発展途上国です。また、最近10年間の図書館環境をみてみますと図書館数は1.5倍に増えていますし、貸出数は約2倍に増えていますが、図書購入費はバブル以降年々下がっています。最後に進化するニューヨーク公共図書館ですが、博物館や美術館のように立派な建物です。ニューヨーク市の人口は東京23区内の人口とほぼ同じくらいです。そのほか、地域の分館が85館とそれから本が置いてない舞台芸術図書館とかいろいろ変わった図書館があります。予算ですが、310億円というものすごい数字です。税金も加えられているのですが、個人や企業からの寄付も非常に多く、寄付した人には寄付金控除として認められています。日本もIT長者などのお金がある人もいるようですが図書館に寄付してくれたいいなと思いました。それから図書館の利用数ですけれども、2500万人と書いてありますが半分はHPでインターネットでアクセスした数になっています。また、科学産業ビジネス図書館もあり、ある人は1年間通って、最新のビジネス状況を資料の中からデータを集めて投資商品を作る会社を作りました。今も毎日ノートパソコンを持参し、必要なデータを取出し顧客にニュースレターを送っています。非常に優れた1番のものが図書館にあるということですね。日本なら大企業しか持っていないようなデータも図書館にはあるということです。最後に産業、文化・観光のテーマの中でなぜ図書館なのかといえますと読むこと、考えること、それは人間だけにできる能力です。この考えることをおろそかにすると相手への思いやりや心豊かさは得られなくなってくると思います。新宿区の10年、20年後を考えたとき、他人まかせではなく、積極的に変えていかなければならないのではないのでしょうか。区の財政も大幅赤字からこのところだいぶ黒字に変わっていますので、決して無理な願いではないと思います。最後に、職業支援について少しお話をさせていただきますと、職業安定所とかいろいろありますが、こちらは、履歴書の書き方や毎日講座を開き、就職に有利な勉強などを教えたりして、スタッフが大変力を注いでいます。また、このニューヨーク図書館は9・11テロでオフィスが壊れたときに、みんながオフィスから来て、機動隊

も個人的に来て、インターネットも増やしオフィス代わりにしていたということでニューヨーク市から賞をもらい、非常に図書館が市民の中に浸透しているということです。以上です。ありがとうございました。

: どうもありがとうございました。続きまして、B委員どうぞ。

: (B委員) 長くやっておりますものでいろいろと想いがありまして、厚い資料になっています。「新・新宿まちづくりプラン21」という名前を勝手につけましたが、私の立場は新宿区民会議第3分科会、第5分科会委員、新宿駅前周辺地区協議会理事で、都市マスタープラン担当になっております。その観点から新宿駅前周辺協議会の都市マスタープランを具体化する中で、それを新宿区全体に広げるとしたらどうなるかという感じで、まず資料の項目だけを読みます。以下の6項目を骨格としたまちづくりプランを区民会議の提言書に盛り込み、各位の協力を得て実現の具体的道筋を描き、今後の新宿まちづくりに寄与したい。1:「つのはずオペラまち」の形成です。つのはずとは、もともとのつのはず村の伝統という意味を込めています。それからオペラというのは芸術の代表的なもの。内容は西新宿三丁目西地区、西新宿四丁目南地区の両地区再開発を一つのコンセプトのもとにまとめて長期的広域的視野に立って早期に具体化する。2:新宿駅周辺東口、南口、西口を周回し中央公園から、東京オペラシティまで通ずる大規模歩行者動線を整備する。東は伊勢丹、西は東京オペラシティまでを第一次整備区域とする。二次、三次で順次拡大する。新宿駅周辺回路通路、靖国通り、新宿通り、水道通り30メートル以上の幅員確保を目指し、これら主要道路にLRTの導入し、連携するコミュニティバスネットを検討する。3:新宿中央公園をくつろぎ、情報、観光の拠点として本格的に整備する。場所に地下、低層2階建て等環境に配慮した木質系建築を組み込む。植栽はじめ施設を整備、安心してくつろげる公園とする。4:溢れる緑の創出と緑の系を整備する。中央公園を基点に新宿御苑を経て神宮外苑に達する緑の系、緑の道を創出する。5:区役所・特別出張所を拠点に文化・観光・情報のネットワークを築く。企業、住民、NPO等を横断的につなぐ協議会の支援組織を検討する。ブロックごとのまちづくり基金拠出を含め検討する。6:地域連携、千代田区・文京区、地方に石川県金沢市や京都市と産業・文化・観光をメインに姉妹都市関係を築く。以上、配付資料の簡単な説明をさせていただきました。皆さんと一緒にこの区民会議をより有効なものにしていけたらと思います。

: どうもありがとうございました。では、C委員どうぞ。

: (C委員) どうも、こんばんは。お手元に分科会での報告を配付させていただきました。少々ポイントがずれていたようで、全体のスケジュールと合わないような感じのする意見ですが、できるだけ皆様に合わせてやっていきます。したがって、文章にしましたが簡単にお話します。その点を最初にお断りしておきます。結局、第5分科会でやっていた産業、文化・観光の3つのテーマは相互に関連しているとい

うことで総合的に進めてきましたが、それは言ってみれば新宿のまちの中で地域の問題、地域の生活の問題として取り上げていくことが一つのポイントとして大事だと申し上げたい。それで、大企業が計画してまちづくりをしていくものはあるかとは思いますが、現に私たち新宿に住んでいる人間が生活の拠り所としている産業の中で、市民生活を支えているという観点で考えてみたいということが一点目です。その中心は、新宿区で言えば四谷、神楽坂、高田馬場のまちおこし活動の積み重ねにあると思うので、見えるもの・景観のみならず、まちづくりをする。まちおこしの努力をしている仕組みを提言したら、新宿やその他の地域のまちづくりの力になるのではないかとということが二点目です。その中で、落合付近に住む私としては、最近、行政にもまちおこしを薦めているのですが、現実的に住民で話を聞いたところ、まちおこしの中心になる商店街の皆さんがまちおこしへの関心が必ずしも十分であるとは言えないようです。しかし、商店街の振興ということに関しては強い関心があるようですが、具体的なイベント等になるとまず先にそろばん勘定ができて、それが地元と商店街では焦点または想いがずれの原因ではないだろうか。また、最近では、情報関係の仕事をしている方、デザイナー、アーティストが落合に住んでいると聞いていますが、そういった方々と知り合う機会が少なく、なかなか関わりあうことが難しい。そういったときにまちづくりに対してどう考えていくのかといえば、商店街がやはり中心であることには間違いはないが、かなり難しい状態にある。6月の提言も10年先、20年先の新宿をどう考えるかという時に、こうなるだろうという構想、こうしてほしいという構想、こうしたいという構想があるでしょう。この中で、こういう状況だからどうする方が良くて、こうなるだろうという予想しながら、こうしたいという気持ちが中心になっていくとすれば、四谷や神楽坂よりも広く整備されている落合や目白通りですが、徐々にマンションが増えつつあります。今は高層にしようとするので街道沿いにしかできないのですが、そこにある商店街にはシャッターが閉まるようになり、ビルになっていく。建築主と話をするにも建てたらいなくなるので、話の拠り所がない。マンションを販売するには、1階はきれいな方がいいといわれる。そうすると、その一角に商店に確保することもできない。目白地区の商店街を守るといのが、マスタープランにもあるようだけれどその方法、手段がない。そういうところを作っていく必要があると思います。

- : ありがとうございます。では、D委員どうぞ。
- : (D委員) 皆様、こんばんは。これまで苦勞して資料を作ってまいりましたが、これからもぜひ始めに配られた新宿区基本構想の冊子をお持ちください。私はこの冊子と皆様にもらった意見をふまえて常に考えております。お配りした資料をご覧ください。細かいことは申し上げませんが、仏つくって魂入れずということにならないようにしたいと思います。私が提案したいのは、商工・観光・文化の地域などに



ある草の根団体がこれまで区といろいろ協働してきましたが、やはりハードだけでなく、そういう団体がきちんと活動しない限りは達成されない。それぞれの団体がそれぞれの活動をしやすいようにネットワークを作って欲しいということを基本構想に入れてほしいと申し上げていましたが、現在の基本構想ができたところ、そういう項目は入っていない。その事項も入っていない。いざ、施行されると、少しは団体として活動しやすくなるでしょうねとお話していたところ、項目がない、事項もないと、私たちは参加することもできず、区の予算がつかない、協働がないということは区の広報にも載せてもらえないということなのです。そして、ここに来て、区長さんが代わられてから協働ということを出し、やっとホームページには載せてもらえました。そして、今回の区民会議でも、区民の意見を一生懸命反映させようとやっていらっしゃるんですけど、どのような意見を出そうとも基本構想審議会はどう審議されるかわかりません。提言を出しましたら、何年かしてから、実行されますがそれを区民が見守らないと生きたものにならない。そして、ここにいらっしゃる皆様は各地域、各方面、各分野において熱意と経験をもって活動されている方ですので、ネットワークを構築していくことがこれを生かす基になるのではないかと思います。また、現状として、文化は文化、観光は観光で出ているのですね。こういうものがバラバラですね。あるホームページを開いて見ましたら、「日本絹の里」というのがあります、そこの里に行きましたら、買い物はここでしなさい、観光はここでしなさいっていう、1枚のものに全部入ってしまっているのですね。だからここでやろうというものはもう他ではやっているのに、新宿区は「染の王国」とか出ていますが、それには制作の過程はこうですよと出ていますが、そういうここに来たならば、新宿区はこういうものがありますよ。これに関連して四谷では草履も作っていますよというような考え方がないのですよ。私もびっくりしたのですが、NPO法人の名前はたくさん出ていまして、その団体が何であるか説明していますが、図書館を考える会も出ていませんし、他の私の知っている団体も何も出ていません。やはりそういうネットの構築というものをしっかりやる。だからネットで、協働しながらつくり上げますというものを、私はぜひ今度の基本構想の中に入れてほしい。魂が入っているものをつくりあげてほしいのです。では、よろしくをお願いします。

- ：（E委員）私は新宿大通り商店街で活動しているのですが、そこで感じたことを提案したいと思います。それは、区内主要駅前広場に、「まちの駅」を作って、まちの案内人としてのコンシェルジェ、いわゆるガイドを配置する。それから2番目として早朝、商店が開店する前に歩道上のガムやゴミの清掃を行う。それは従来からの名所旧跡という観光の概念を超えて、都市空間は全て観光の要素があるということですね。例えば、京都とか奈良とかいうのは、まち全体が観光地であるという考え方で、観光にしていると思います。このアーバンツーリストですが、商店街を歩き

回る人々のなかには、「あそこに行きたい」とか「ここに行きたい」とかいろいろな情報を求めている人がいます。そういう人たちに的確な情報を与えた方がいいという考え方ですね。あとは倫理、マナーの問題なのですが、いろいろと商店の前にガムやゴミが散らかっている。それを取り除くことによってまち全体をきれいにしよう。これで活気が生まれるのではないか。一番目の「まちの駅」と、二番目のまちをきれいにすることによって商店街は、他の地域から来られる方によって、買い回りができる観光地であり、地元の名産品を売るこだわりの集合体、そして、個々の店とは利害関係のないガイドというコンシェルジェを通してまちの誇りの紹介。買い回り性の拡充。まちの案内などを充実し、また来たくなる新宿区を実現できるのではないか。二番目として、商店の前の歩道を毎日早朝に清掃することによって「いつ来てもきれいなまち新宿」として来街者の目を楽しますことで都市景観の一因としての歩道の本来の価値を取り戻すことができるのではないか。そして、捨てガム、いわゆるガムを捨てるということは自分で満足しておいしい味わいをして、それが終わった後は他人の土地の上に捨てていってしまう。歩道はゴミ箱だという意識があるかもわからない。そういう公衆道徳の低下によって、崩壊しつつある社会人の心を元来、普通に人がもっていた美意識を呼び戻し、活力あふれる人々が行き来するまちを取り戻す一翼になれるのではないか。また、三番目ですが、従来からの一部マスコミによる間違った新宿のイメージ。いわゆる汚く恐いまち。これを安心、安全のまちに変えるために新宿をわかりやすい、清潔なまちに変えることによって人々のあきらめ感や閉塞感を「やればできる」という発想に転換し、活気あるまちに戻し、少しでも明るい未来を描きたいということです。四番目は、ニートと呼ばれる若年層にも関わらず定職を持たない人々、あるいは団塊の世代と呼ばれ、本人はまだまだ働けるにも関わらず来年にも始まる大量な定年者、これはだいたい600万人といわれていますが、それが問題です。また現在失業されている方々に軽作業ですけども他人に喜ばれ、まちがきれいになっていくという事業に参加してもらい、少しでも明るい未来を想像できる仕事をつくりだせるのではないか。それでまちのガイド、まちの清掃を提案したいと思う。こういうことで今日は話をしました。以上、私の発表に終わります。

- ：（F委員）時間がないということなので、新宿区の工房の水元の場面とNHKイブニングネットワークから文化の香りの残るまちということで東京落合界隈を見ていただきます。都市型の産業と特徴ともいえる限られた空間での営みということで特に外部からうかがい知ることのできない伝統産業を周辺の環境とともに捉えたところをお見せします。その中で生業として土地環境へのこだわりとかということも話しておりますのでよくお聞きになってください。それでは途中コメント入れるところもありますけどもご覧ください。では、どうぞ始めてください。  
（ビデオ視聴）

というわけで、落合では能楽師の関根祥六さんや漫画家の赤塚不二夫さんとか、かなりいろいろな分野で活躍されている方がいらっしゃるんですけど、外からうかがい知ることができない。文化の発掘をしながら、観光につながれば一つの都市型の産業としてご理解いただければよいかと思って今日ご紹介しました。ありがとうございました。

- ：（G委員）では、最後ですので、手短かに終わりたいと思います。今お手元にお配りしています資料は、現在、発売中のある雑誌がたまたま神楽坂特集をやりまして、そこに私が書いた原稿をそのままコピーさせていただきました。神楽坂については、いろいろなメディアで取り上げられるという幸運に恵まれていまして、ある程度ご存じかもしれませんが、その雑誌でなぜ神楽坂が人気があるのか、神楽坂の中で私個人がどのように今後活動していくかということを中心にまとめてものを申し上げますと、神楽坂の魅力というものを1つ2つ3つという形で書かせていただいておりますが、非常に地形が複雑であるということと、小規模だということと、和風というものが一つの伝統として残っている。非常に簡単にいいますと、そういう魅力が現在でもあるのではないかと。それから神楽坂のまちを継承していくためには、開発のあり方ということがあります。一つは六本木ヒルズのような大規模開発になるのですが、神楽坂は伝統的に階段だとか、路地だとか、坂だとかが都市開発から見放されたところが一周遅れで逆にそれが魅力になっていることを考えると、大規模開発のものと異質のものを今後残していくことを考えております。一つは持続可能性と、スローなことでありまして、古いものを残していきながら、新しさを拒否せずに古さと新しさを容認しながら、しかし古いものを大事にしていこうと考えてきました。まちの財産を守っていくものとすれば人の歴史があるわけです。どういう人たちが守っていつているかはそこに書いてあるわけです。それで最後に今後の神楽坂で私の出版編集者がやるべきことは記録を残していく、これが一つの文化の継承だと思っております。神楽坂の昭和30年という、このところ昭和ブームでありますけれどもいろいろと企画がなされていますけれども、昭和30年は神楽坂にとってどんな年だったのか、その中で失っていくものと継承していくもの。その特集をやっておりますけれども、結局記録されたもの以外は人間の記憶に残っていかないということがありまして、そういう意味ではいろいろな記録の仕方がまちにとって大事ではないかと思っております。新宿区についてもまちの文化を継承するのにどのような記録を残していけばいいのかを私はこの区民会議で考えていきたいと思いません。簡単にいいますと、私どものまちづくりは古いものをできるだけ残しつつ新しいものを拒否しない点です。2点目としては持続可能なまちづくり、持続可能な生活のなかでスローなものを大事にしていこう。3点目として先人たちの文化をしっかり継承していこう。この3点を私自身考えてありまして、そういうものが産業を生み出し、文化を活性化して、観光につながるのではないかと思います。少し紹介

させていただきますと、今、江戸東京博物館で記憶の地図というものをやってきたのですね。今私や私の上の世代が記憶してきたものを1枚の地図に残していく作業で5枚完成しました。今ある新聞で取り上げておりまして、今、関心をもって調べています。その記憶の地図が何枚も重なっていったら、これから私たちが生きているうちに私たちの記憶の地図、私たちの次の世代が記憶の地図を作ることによって一つの文化が継承されると思っております。これは今注目されていますが、高齢者の脳の活性化に役立っておりまして、記憶を呼び戻すということが人間にとっていかに大事かということが言われておりまして、体の健康にも、まちの文化の継承にも役立っております。この新宿区民会議でこの文化の継承に役立ってもらえればと思います。以上です。

- : 皆さんどうもありがとうございました。皆さんの熱き思いをこの次の提言に活かせるようにがんばっていききたいと思います。
- : 発表していただいた皆さん、ありがとうございました。続いて廣江先生、お願いします。
- : 今日のお話を全部聞いて、後でコメントします。

#### 5 提言のまとめについて

- : 続きまして、提言のまとめにあたって、第5分科会では検討分野として、「産業、文化・観光」というテーマが与えられていますが、それについて、柱となる項目があります。各分科会で、そろそろ個別の問題から、大きな項目にまとめていく必要があるのではないかとということで、それを持ち寄りまして、提言書の形としていきたいと思っております。第5分科会におきましても、中間発表の時に、将来どうしたいのか、現状・問題点などについてご報告をさせていただいたのですが、それらについて、柱、項目をまとめていく段階です。では、リーダーから説明をお願いします。
- : 今日のお話に触れさせていただきます。今まで検討してきた事例、事柄などを大項目、中項目、小項目などに整理していく作業と認識しております。中間発表の報告を見ていただくとおわかりだと思いますが、これは100%のものではないので、まだ足りない視点もあると思います。この足りない視点を埋めながら、大項目、中項目を絞り込む作業が必要です。4月7日に世話人会編集部会がありまして、そこで第1～第6分科会から、項目を出してもらいます。もう少し説明しますと、細かいところを挙げていただきたいのですが、結局、大項目、中項目はそれで整理される、おおくりのもの。特に大項目は一種のスローガンのようなもので、それから中項目は方向性だと思います。実際、私たちが本当に述べたいところは改善と解決の方向性ではないかと思っております。中間報告でもいろいろな具体案が述べられていて、様々な方からいろいろなアイデアが書きとめられておりますけども、私個人としては具

- 体案まで、最終的に6月25日までに提案するという形で、あえてそれを小項目とすれば、大項目、中項目、小項目という形で展開して、世話人会に提出して、分科会間の調整をして、最終的に世話人会の中でそれを執筆して、プレゼンするということになるのではないかと思います。こういう作業をどういう形でやるかという具体案がまだ決まっていません。ただ、それぞれの分科会ごとで4月7日までに提出する作業をやる場合に、ただ項目を渡して終わりではなくて、今日いろいろな形で文書化されているのを見ますと、いずれにしてもなんらかの形で文書化することが必要になると思います。そうしますと、執筆グループをまず一つ作らなければならないと思います。これは机上の空論ではなくて、廣江先生がおっしゃったようにそれは説得力をもった、データや事例をつけたりする必要があるので、執筆グループを支える調査・検証のようなサポート体制がなければ、説得力の無い文章になってくる危険があります。大雑把に具体的なコンセプトをつくって、それを文書化するグループと、それを支えるために取材をしたり、資料を提供するグループが両輪になって進む形になるかと思います。もし、違うという意見があればお願いします。
- ： 基本的に賛成です。賛成の部分は、7日までにまとめることと、執筆者とそのサポート体制です。私はサポートの方にまわりたい。第5分科会の印象として、伝統を大事にするというイメージ受けるのですが、新たに人を呼ぶとか、新たに創造するというのにあたって、大胆な提案が必要かと思うのですが、歌舞伎町だとかが生きた材料だと思います。
- ： 他の人はいかがでしょうか。大事な局面なので意見をお願いします。  
補足しますと最終的に4月7日以降、執筆にかかるグループ。それをバックアップするグループになってくると思うのですね。比重としてはやはり説得力をもつためにデータ、事例が必要となりますし、私がかまのコンシェルジェを配置するためのアイデアはありますけども、具体的な事例は区などで調べる必要があります。そういう実践部隊というのが数としては必要かと思います。もうこの段階なので全員どちらかのグループに入ることが必要ではないかと思います。
- ： 日程が迫っているので、ある程度決めてしまったらどうかと思います。4月7日というのはあと2週間くらいしかないので、早め早めに動いていかないとまいかかないと思います。
- ： 発表前にあったように、リーダーの方で4月7日までに皆が集まれる日を決めて、それ以外の方は意見を書いて、提出する。そういうものにつなげていかないともったいないと思います。
- ： 私は雑用が得意で、新宿区のデータは取れるのですが、コンセプトや執筆するというのは大変で、その辺はなかなか自薦という方もいないと思います。そういう人を他薦していく方向でよろしいのではないのでしょうか。話は変わりますが、今回の提言は最大限尊重するとしており、万一それが実現しなかった場合にはなぜそれが実

- 現しなかったのかという理由を説明しますと区は言っています。
- : その後が大切です。9～10年後に実行できるプログラムができるわけです。そのときに違ってきてしまうのです。そのときには入っていたと思っていたのですが。その後の実施計画とかで何も出てこなくなるのです。だからやはり実施されるときまで見守らないといけないようになってしまうわけですね。こういうチェックする体制が必要です。けど今は執筆の方が先ですね。
  - : それに関連して。提言されたことを文章化されても実現にあたっての担保というのが無いというのが問題なのですが、今度の場合には、区に何かをやってくださいというだけではなく、区と一緒に何かやるという言い方に話が変わってきているので、そういった意味での担保はどういう仕組みで作られているのかというのを埋めていかないときれいごとで終わってしまうのではないかと思います。
  - : 私も同感です。それで、当然PLAN、DO、SEEの、SEEの部分が大事です。そういうふうにならないシステムをつくりましょう。先を急いで申し訳ないですが、中間発表で出したアイデアの中には非常に良いものがたくさんあるわけですね。散文的な書き方で、壇上では何も報告していないですが、いいアイデアがたくさんあるわけです。この段階で産業・文化・観光であえて3つに区分すれば、産業・文化・観光に分ける作業があってもいいのかと思います。例えば、産業の得意な人、文化の得意な人、観光の得意な人など、そういう人を中心にこの改善と解決の方向性を6月25日に本当に提案するのか、提案する際にどこを補強してどういう展開、構成にして説得力のあるものになるのかというのが出来ないかと思っていますがどうでしょうか。3つのグループで整理していくともっとわかりやすいのかと。そこから中項目、大項目を逆に抽出していくことはそんなに難しい作業ではないかと思っています。
  - : それから今の日程ではとても足りないと思います。日程をどうするかということを進捗方法として決めないといけないと思います。
  - : 先日、リーダー、サブリーダー、橋本先生で、打ち合わせをして、このままでは間に合わないということで、とりあえず臨時検討会を3月29日に行います。これには勝手に提案しているので出られない人もいますが、出られる人は頑張ってもらって出てください。出られない人でもメールやファックスなどで自分の考えを寄せていただく。ここで1回作業をやって、4月7日に提出したいと思います。それに向けてどういう作業体制でやっていくのかをご検討していただければと思うのですが、よろしいですか。では、それに向けてどういう作業をするのかを残り時間で検討したいと思います。
  - : リーダーを中心に叩き台をつくっていただくことはできないですか。
  - : 私の提案は逆の提案をしたわけですが、例えば、産業について、得意な人2人ぐらいでチームを組むという提案をさせていただいたのですが、皆さん忙しいし、お願

- いしにくいのですが。
- : 大項目、中項目をつくるにあたって小項目もないと出来ないですかね。
  - : 自分の意見にこだわるわけではないですけども、この改善と解決の方向性というのが小項目になるような気がするのですね。それを整理するとおのずと中項目、大項目が出やすいのではないかと思います。今の話と多分同じだと思うのですが。
  - : 作業を小項目から機能的にやれば、大項目が出てくるのではないかと、それで足りないところもあれば、それで出せるのではないかとおっしゃっているので先に大きいまとめを考えるよりも作業としてやりやすいのではないかと思います。
  - : 私もすでに出来ているような気がするのですね。先程、言ったように中項目、大項目もあって、小項目が非常に散文的になっているので、小項目を整理して中項目に並べていき、それを括って大項目にするという作業がいいと思うのですが。それを効率的にやることだと思います。かなりいいアイデアが出ていて、これ以上は出てこないと思うのですね。
  - : とにかく執筆候補になられた方は大変ご苦労さまで、大変ですけどせっかくリーダーが推して下さったのでお願いしたいと思います。
  - : どうでしょうか。
  - : できることはやりたいと思うんですけど。
  - : とりあえず文化のところで、整理していただけないでしょうか。
  - : 今、私は音楽ですね。何をもちて文化を進めるかというのがあって、染色業も作品的には文化なのですね。ただ、私も営業マンですから、どちらかという観光ということになるかもしれないので。そういうことを含めて、新宿区における文化とは何ぞやというのを整理していただきたいのですが。ただその辺を託されていいのかということですね。
  - : 一応普遍的に、というのは願望としてありますけども、でも偏らざるをえない場合もありますよね。
  - : また美術を言う人もいるし、映画という人もいるし、落語という人もいる。
  - : 総合的にそれを種にして何をすべきかということですね。
  - : そうだと思います。
  - : それらの種が新宿区にどういうものがあるかというところを挙げていただくというか。
  - : そうですね。そこは調査グループの活動になってくると思います。
  - : 新宿区にとって、どういうアピールになるかを考えるということですね。
  - : その中でいろいろなアイデアがあるものを、最終的には何を残していくのかの叩き台になるわけですね。
  - : 「まちの駅」を提案したのは私ですが、ここのところ、また世の中の動きについて新宿区でできるフェスタがあるというのが、オリンピック的なものなのですけど。

みんなが注目するようなイベントが産業・文化・観光に盛り込めるのも一つかなと思っていたのですが。

- : せっかく産業・文化・観光なのにまたあえてグループに分ける必要はないと思います。国際的な新宿と住民にとっての新宿、すなわち住み続けるまち新宿というイメージ、歩き続けるまちというイメージ、それをどうトータルして創るかという組み立てを少しこれからするのかと思います。
- : それをもうちょっと教えていただきたいのですが。今のお話は実際作業をするとなるとどのようなことなのか。
- : 少し説明しづらいのですが、新宿というまちはたくさん高層ビルがあり、日本全国の芸術の中心である新宿であったり、観光客を誘致する意味での新宿というところをどのように華々しく打ち出すかということに意味があるということと、交流がどうできるのかということからすると、落合とか神楽坂といった地域ですよね。どの産業・文化というものと、新宿駅周辺だとか歌舞伎町のもっている機能。もしかしたら新宿駅周辺のところの機能というものを中心に考えるのかということと、新宿区内の各地域のそれぞれのところで問題となることあるかもしれない。突然こんなことを言い出して恐縮ですが。
- : ワーキンググループが必要になった場合に、ワーキンググループとしてどういうわけ方になるのでしょうか。
- : 産業については、「商」と「工」とで大雑把に分けてしまう方法があるかと思うのですが、少なくとも商店街や伝統産業は新しいものを入れない限り物理的にもうどうしようもない。例えば、新宿区を出て、地方にいるけれども都心回帰型で区内に工房を構えたいということがあるのですが、現実にはなかなか難しい。いくら基本構想を出しても、政策の実施段階では、現場に行き届かない、周知がされないことが多くみられます。今回の仕事に関しては担保が欲しい。私は、大項目は逃げ道を作っておく意味では、「歩きたくなるまち」「住みたくなるまち」を据えておいて、むしろ小項目から攻めていき、なおかつこれから新しい産業をいかに新宿区に活力をもたせるかということにもっていかないと、今あるものをどうしようと人が減ってしまうものを構築しようといっても少し無理があるような気がします。落合では60歳以上の商店会が7割なのです。15年後には必ずシャッターが下りますから、それをもって今を考えている人だから、「工」についていえばそれは伝統産業ですけども作り手がいない。商人ばかり増えてそれを持っていく。ものづくりを忘れて職人さんに伝統産業を訴えたって活性化にはつながらないと思います。そのような現状をいかに提言にもっていかんかということはかなり難しいと思う。
- : いままで第5分科会は夢のあるテーマがあったのでどちらかというとアイデアを出すとか、そういう方向性があったと思うのですが、今のお話の中で、もし現実をもっと見つめて軌道修正して、逆に今何が悲鳴を挙げているのかそれを具体的にど



- うすれば改善できるのかということにポイントをずらさないで、夢の方を語って、10年後20年後このビルが出来たらいい話になってしまうと思うのです。逆に皆さんがそれを認識されているかで全く180度変わってきてしまうと思う。
- ： 中間発表のときに第5分科会は本音の部分が出ていないという意見がありましたね。まさにあれなのだけでも本音を言ってしまうと愚痴になってしまうからある程度夢を語っていかないと後継者層というのが入ってこないわけですよ。そういう意味である程度夢というのは語ってもいいと思うし、逆に二次就職、三次就職ということを行ったけども、ある程度カルチャー的、ホビー的に趣味の世界から育った人にこの産業を開いて入ってくださいという方向にもっていきたいと思うのです。そういう意味では最初は夢を語った方がいいというスタンスでいたのですが、他では今どうしてくれるのだという声があまりにも強い。だからその辺は今置かれている自分のポジションから1回離れて、自分を外から見直すということが必要だと思う。そういう意味では今出ていることから組み立てて、さらなる新しい空気を入れられる場所をあけておくということは必要だと思う。特に産業に関しては。
- ： そのとおりですが、今苦しい状況というのは現状と問題点に出ているわけです。私達が今やろうとしていることはそれをどうするかという具体案で、そこは夢とは言わないまでも現状の愚痴の話ではなく、どうするかということです。どうするかという時に担保が必要なわけですね。担保を考えながら将来に向けて作業をつくっていくことが必要だと思うのです。観光等は夢がある部分がありますから。現状でいいじゃないか思っています。苦しい状況は当然バックグラウンドとして書いていくわけですね。
- ： 担保してくれるようなものが今度の提案の中にないとすると、本当にきれいごとで終わってしまう。
- ： 担保する方法も我々が同時に提案していくわけですよ。第3分科会も都市計画での全体的な担保の仕組みを考えているわけですが、我々はもっと個々の担保というのを提案しないと。
- ： 区民が提案していこう、行政と一緒にやっていこうということなのだから、支援するというのを担保として欲しいということですね。
- ： 現実には縦割り行政になっているわけですね。そういう状況の中で様々な提案があったというのは縦割り行政から漏れていってしまう話がどんどん出てきてしまう。
- ： いずれにしろそういうことを過去に体験されている方がたくさんいらっしゃると思うので、今回はそこを押さえながら、我々のアイデアで抑えられなかったらどこかいろいろと聞きながら学びながらやっていくことにしたいと思います。
- ： 問題と解決の方法に、できるだけ知識を盛り込んで、そういう意味での担保の仕方を盛り込む作業が必要だと思います。

- : 29日の作業としては、今議論で起きたことがあると思います。小項目から大項目、どちらから攻めるのかも含めて、中間発表を読ませていただくと、全体としては大項目、中項目も結構できていると思います。小項目を中項目とつなぎ合わせて担保の部分を作っていくことかと思います。
- : 具体的に文化ということで、こういう整理の仕方がありますということを提案していただけるといいですね。打ち合わせは会えなくてもいろいろな方法があります。後はあえて区分すれば産業と観光ですが、どなたか整理してきていただけませんか。
- : 自分の立場で整理してしまうと自分を追い詰めてしまうと思います。だからむしろそれぞれ第三者の立場からこうすればいいのではないかというヒントを出してもらい、それをプロの立場としてまとめるのは私たちだと思う。だけど最初のところはどういうスタンスに置くかというのはやはり他から見た目はかなり大事だと思う。具体的には改善と解決の方向性から入っていただいた方がいいと思います。
- : では、29日にもう一度検討してまとめましょう。

#### 6 学識委員より

- : 簡単な考え方でいうと、おそらく皆さんに期待されているのは、ランドデザインを横目で見ながら、区民の立場として、区民の立場というのは生産者であったり、団体に活動している人たちという立場で日ごろお考えになっているような感覚も含めてどうするかという話になります。どうするかということで夢か現実かではないと私は思います。夢を描いて、現実が一方にあって、その間のプロセスの中でどうすれば夢に近づけるのかということを提案することが今回のミッションになると思います。それをどう変えていくかという時に今まで議論してきたものがあるわけですね。あと議論してきたことをどういうふうに整理をするかということでフォーマットがあり、かなり整理されているわけですから、29日という具体的な作業の日を設定した以上は、一番詳細な小項目については、あらかじめ出していただいて、一旦整理したうえで作業しないと議論しにくいと思う。だからあらかじめ出していただいて、それをどなたかが一旦整理するか、または一覧表になっていて、大体の大枠で区切られていて、それを通して見ながらどういうふうに整理していった方がいいかという並び替えをしていく。そうすればいいのではないかと思います。そのときに議論されたことの中で落ちていることと、議論されていない中で入れたほうがいいのではないかという意見も出てくると思います。それを併せて考えていけばいいと思います。議論されていない中で新しく入れなくてはいけないことは皆さんのご承認がなければいけませんから、それはそれでどうするかという方法は考えなければいけないと思います。

7 事務連絡

\* 3月29日の臨時検討会までの宿題

各自が今までの議論の中から、大項目と中項目について考え、落ちているものや新たに加えるべきものについても検討する。

前日までに、事務局あてに案を送る。

\* 臨時検討会

- ・ 3月29日(水)午後6時～ 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

\* 次回の分科会

- ・ 4月10日(月)午後7時～午後9時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

以上